

～～～～～
 ニュース JAFIC EYE №204
 2021 年 1～3 月の主要魚種の水揚量・市況動向
 ～～～～～

1. 主要港の動向

JAFIC が調査している全国主要 108 港における 2021 年 1～3 月の調査対象全魚種の累計水揚量は 44 万 9 千トンで、前年同期（44 万 7 千トン）並みであった（表 1）。平均価格は 162 円/kg で、前年同期（175 円/kg）の 93% であった。1 月は 185 円/kg、2 月は 161 円/kg で前年同月を下回ったものの、3 月は 147 円/kg で前年並みであった。

表 1. 全国主要港の 1～3 月の水揚量（トン）と平均価格（円/kg）

月	2021年		2020年		前年対比	
	水揚量	価格	水揚量	価格	水揚量	価格
1	121,610.6	185	114,428.7	221	106%	84%
2	146,662.9	161	156,553.9	177	94%	91%
3	181,115.8	147	176,037.4	143	103%	103%
合計	449,389.2	162	447,020.0	175	101%	93%

（以降出典：JAFIC おさかなひろば）

主要 48 魚種の 1～3 月の魚種別の累計水揚量と平均価格を前年同期と比較した（表 2、図 1）。水揚量はさば類、生鮮カツオ、生鮮キハダなど 19 魚種が前年同期を上回り、マダイ（天然）、キンメダイなど 3 魚種が前年同期並み、マイワシ、生鮮スルメイカ、生鮮メバチなど 26 魚種が前年同期を下回った。平均価格はかれい類、冷凍キハダなど 11 魚種が前年同期を上回り、スケトウダラ、さば類など 9 魚種が前年同期並み、マイワシ、生鮮カツオ、クロマグロなど 28 魚種が前年同期を下回った。このうち水揚量が前年同期を下回ったにもかかわらず、価格を下げた魚種は、ブリ、生鮮メバチ、クロマグロなど 12 魚種で、うち 1,000 円/kg 以上の高価格魚は 4 魚種で

あった。

表 2. 全国主要港の 2021 年 1～3 月の魚種別水揚量（トン）と平均価格（円/kg）（新型コロナウイルス流行前の 2019 年 1～12 月の平均価格の昇順に並べ、1,000 円/kg 以上の魚種を赤字で示した。）

	1～3月						1～12月
	2021年		2020年		前年比		2019年
	水揚量	価格	水揚量	価格	水揚量	価格	価格
マイワシ	98,029.0	38	142,086.0	47	69%	82%	41
ニシン	819.7	148	1,831.8	78	45%	189%	52
カタクチイワシ	3,943.8	41	3,349.9	69	118%	59%	57
スケトウダラ	23,590.8	62	21,981.0	65	107%	96%	58
ウルメイワシ	5,008.6	60	2,001.6	88	250%	68%	76
ホッケ	1,627.4	116	1,001.0	72	163%	162%	81
さば類	163,642.6	103	123,729.7	102	132%	101%	105
ほたてが い 殻付	1,179.6	149	1,042.9	212	113%	70%	158
冷カツオ	49,864.7	176	29,602.5	204	168%	86%	171
マダラ	10,096.7	185	13,786.7	168	73%	110%	226
マアジ	12,827.2	220	17,180.9	235	75%	94%	230
ブリ	8,633.1	210	12,700.2	301	68%	70%	241
生カツオ	3,888.6	272	1,132.4	622	343%	44%	306
冷キハダ	6,424.7	282	16,867.1	269	38%	105%	311
かれい類	2,483.6	311	3,741.8	254	66%	122%	314
サンマ	1.6	240	1.6	323	97%	74%	317
ヒラマサ	199.9	658	300.8	478	66%	138%	472
ビンナガ	8,005.9	291	4,912.2	464	163%	63%	478
さわら類	1,207.1	730	697.5	734	173%	99%	530
マカジキ	288.0	512	487.4	588	59%	87%	562
たこ類	1,118.8	529	1,069.1	552	105%	96%	575
生スルメイカ	1,323.7	542	1,752.0	619	76%	88%	640
ギンザケ(養殖)	213.5	826	153.5	808	139%	102%	665
サザエ	60.4	637	90.4	562	67%	113%	671
マダイ(天然)	833.2	526	840.6	755	99%	70%	723
ヤリイカ	840.7	686	1,288.7	792	65%	87%	732
生キハダ	2,257.1	792	1,293.6	1,192	174%	66%	750
メジマグロ(ヨコワ)	122.7	787	40.5	1,148	303%	69%	753
あなご類	76.2	716	138.1	702	55%	102%	759
ハマチ(養殖)	91.2	643	124.3	580	73%	111%	781
冷メバチ	5,295.8	721	7,081.0	773	75%	93%	812
冷スルメイカ	1,155.1	660	994.0	1,042	116%	63%	886
マダイ(養殖)	110.5	597	96.3	730	115%	82%	910
ヒラメ(天然)	315.8	930	388.3	1,073	81%	87%	979
アカムツ(ドグロ)	73.9	1,152	106.7	1,083	69%	106%	1,069
メカジキ	742.2	1,158	899.5	1,084	83%	107%	1,094
生メバチ	1,038.8	1,080	1,259.5	1,477	82%	73%	1,131
キンメダイ	367.6	1,380	371.8	1,529	99%	90%	1,658
クロマグロ	345.8	2,652	378.3	3,067	91%	86%	1,680
冷ミナミマグロ	1,058.5	1,686	717.6	1,968	148%	86%	1,738
ヒラメ(養殖)	19.6	1,084	2.5	1,432	789%	76%	1,934
あまだい類	36.8	1,975	48.7	2,229	76%	89%	2,118
キンキ(キチジ)	169.2	2,172	208.2	2,115	81%	103%	2,798
イセエビ	6.3	4,996	8.4	4,927	75%	101%	4,345
クルマエビ	2.0	5,670	3.6	4,728	54%	120%	4,754
トラフグ	50.7	4,867	53.2	5,065	95%	96%	5,559
あわび類	6.5	5,862	9.1	6,408	71%	91%	7,690
うに類(剥き身)	22.6	10,362	21.4	11,513	106%	90%	13,312

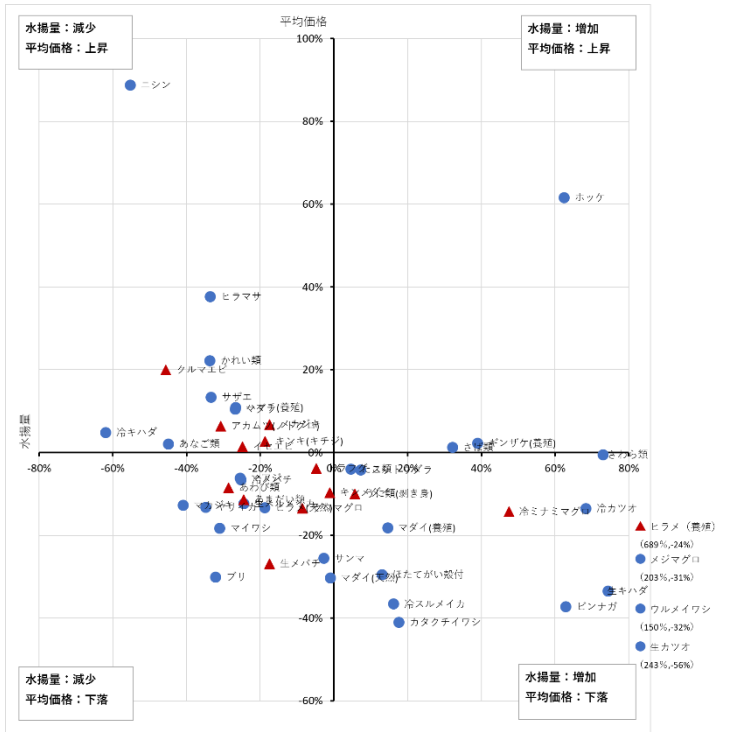


図 1. 主要 48 魚種の水揚量と平均価格の比較（2021 年 1～3 月／2020 年 1～3 月） 横軸と縦軸の目盛に記載した%は、前年同期比の増減率を示す。▲は 2019 年 1～12 月の平均価格が 1,000 円/kg 以上、●はそれ未満の魚種を示す。目盛の範囲外にあるヒラメ（養殖）、メジマグロ、ウルメイワシ、生カツオについては、水揚量と価格の増減率をカッコ内に示す。

同様に 2019 年 1～3 月とも比較した（図 2）。48 魚種のうち、平均価格はニシン、かれい類など 6 魚種が 2019 年同期を上回り、マアジ、ヤリイカなど 6 魚種が 2019 年同期並み、マイワシ、生鮮カツオ、生鮮メバチなど 36 魚種が 2019 年同期を下回った。このうち水揚量が 2019 年同期を下回ったにもかかわらず、価格を下げた魚種は、ブリ、マダイ（天然）、生鮮メバチ、トラフグなど 18 魚種で、う

ち 1,000 円/kg 以上の高価格魚は 6 魚種であった。

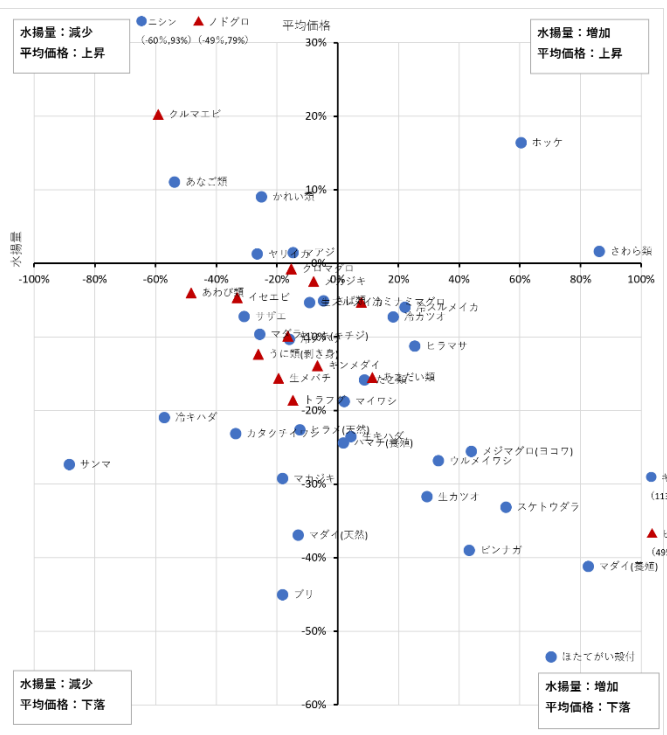


図 2. 主要 48 魚種の水揚量と平均価格の比較（2021 年 1～3 月／2019 年 1～3 月） 横軸と縦軸の目盛に記載した％は、2019 年同期比の増減率を示す。▲は 2019 年 1～12 月の平均価格が 1,000 円/kg 以上、●はそれ未満の魚種を示す。目盛の範囲外にあるニシン、ノドグロ、ギンザケ（養殖）、ヒラメ（養殖）については、水揚量と価格の増減率をカッコ内に示す。

さらに、2020 年 1～3 月と 2019 年 1～3 月を比較した（図 3）。平均価格が 2019 年同期を下回ったのはさば類、マダラ、かれい類など 24 魚種であった。このうち水揚量が減少したにもかかわらず、平均価格が 2019 年同期を下回った魚種は、マダイ（天然）、トラフグなど 6 魚種で、うち 1,000 円/kg 以上の高価格魚は 4 魚種であ

った。

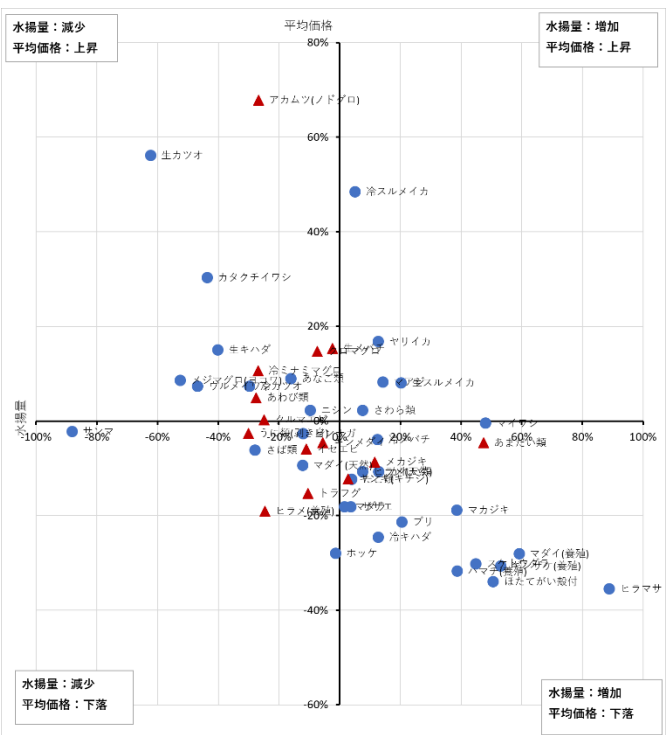


図 3. 主要 48 魚種の水揚量と平均価格の比較（2020 年 1～3 月／2019 年 1～3 月） 横軸と縦軸の目盛に記載した％は、前年同期比の増減率を示す。▲は 2019 年 1～12 月の平均価格が 1,000 円/kg 以上、●はそれ未満の魚種を示す。

2019 年 1～3 月を基準とした比較では、2021 年 1～3 月の方が、2020 年 1～3 月に比べて高価格魚を中心に価格を下げた魚種が多かった。本年 1～3 月は第 2 回目の緊急事態宣言の発令期間であったこともあり、より外食需要減少の影響が大きかったと言えるだろう。

産地市場における代表的な魚種の動向は、次のとおりである。

1) マイワシ

水揚量は 1～3 月のいずれの月も前年を下回る数量で推移し、累計水揚量は 9 万 8 千トンで前年の 69%であった。魚体が小さかったこともあり、水揚量が前年よりも低調だったにもかかわらず、価格は 1～3 月を通じて前年を下回った（図 4）。

貿易統計（財務省）によると、冷凍マイワシの 1～3 月の輸出量は 1 万 7 千トンで前年の 117%、金額は 13 億 2 千万円で前年の 90%であった。数量ベースでは好調と言えるものの、金額は前年をやや下回り伸びなかった。

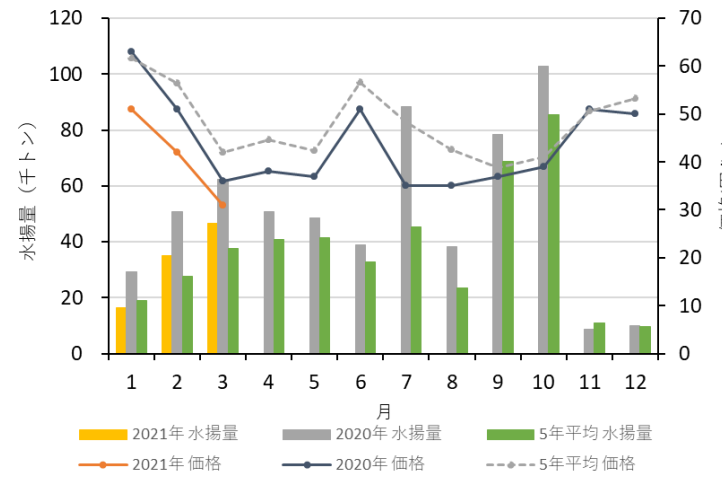


図 4. マイワシの水揚量と価格の推移

2) さば類

水揚量は 1 月が前年の 2 倍の 4 万 7 千トンと好調で、2～3 月も前年を上回る数量で推移した。1～3 月の累計水揚量は 16 万 4 千トンで前年の 132%であった。価格は 1 月が前年をやや下回ったものの、2～3 月は前年並みで推移した（図 5）。

貿易統計（財務省）によると、冷凍さば類の 1～3 月の輸出量は 5 万 1 千トンで前年の 109%、金額は 63 億 7 千

万円で前年の 106%であった。前年よりも水揚量が多かったものの、価格を大きく落とさなかったのは、輸出が好調であったことも影響したと考えられる。

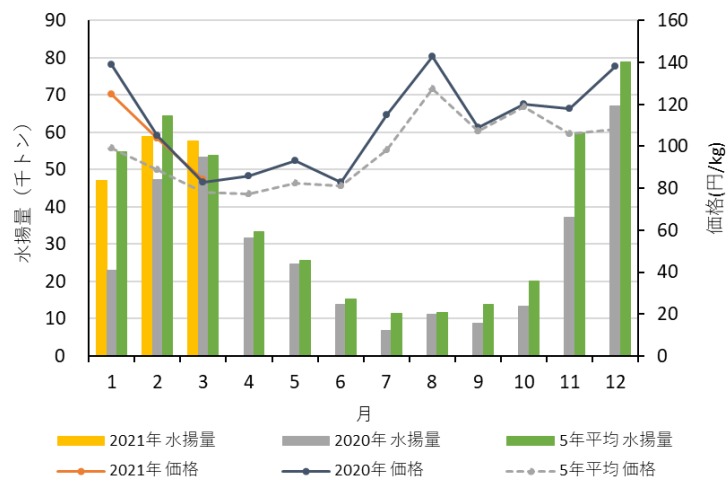


図 5. さば類の水揚量と価格の推移

3) 生鮮クロマグロ

水揚量は 1 月が前年を上回ったものの、2、3 月は前年を下回る数量で推移した。価格は 1 月が 2,579 円/kg、2 月が 2,471 円/kg で前年を下回った。3 月は 3,008 円/kg で前年を上回ったものの、過去 5 年平均 (3,487 円/kg) と比較すると低い水準であった (図 6)。コロナ禍で外食需要が落ちていることが影響したとみられる。

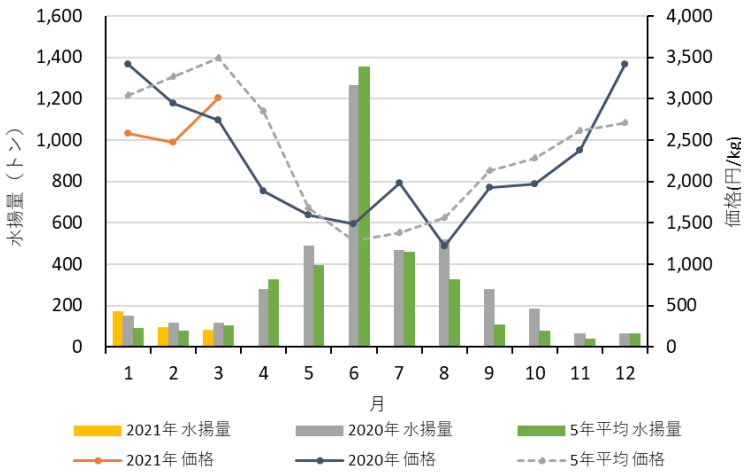


図 6. 生鮮クロマグロの水揚量と価格の推移

2. 東京都中央卸売市場(豊洲市場)における動向

豊洲市場の取扱数量と平均価格を表 3、図 7 に示した。1 月の数量は 1 万 4 千トン、2 月は 1 万 6 千トンでともに前年同月をやや下回ったものの、3 月は 1 万 9 千トンで前年同月をやや上回った。価格は 1 月が 1,119 円/kg、2 月が 1,110 円/kg で前年同月を下回ったものの、3 月は 1,094 円/kg で前年並みであった。第 1 回目の緊急事態宣言が発令された前年 4～5 月ほどではないものの、価格は 1 月以降低い水準で推移した。

表 3. 東京都中央卸売市場における全魚種の取扱数量(トン)と平均価格(円/kg)の推移

月	2021年		2020年		前年対比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
1	14,474.3	1,119	16,167.3	1,263	90%	89%
2	15,893.7	1,110	16,696.1	1,196	95%	93%
3	19,408.1	1,094	18,247.0	1,059	106%	103%
合計	49,776.2	1,106	51,110.4	1,168	97%	95%

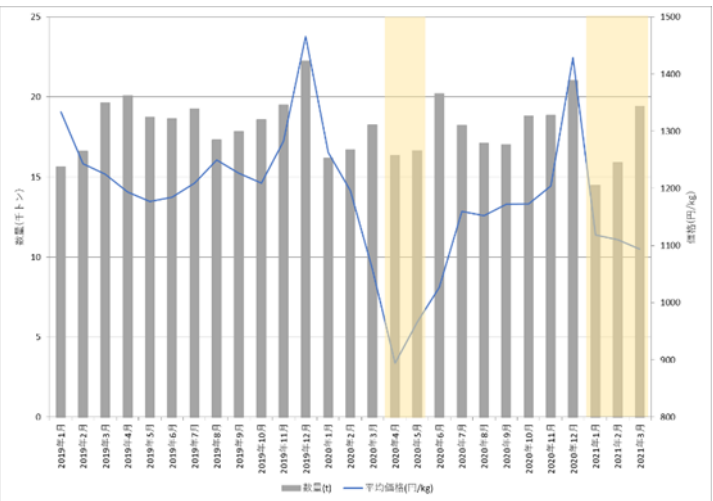


図 7. 東京都中央卸売市場における全魚種の取扱数量と価格の推移(2019 年1月～2021 年 3 月) 黄色で示した月は第 1 回目、2 回目の緊急事態宣言の期間を示す。

豊洲市場における代表的な魚種の動向は、次のとおりである。

1) マアジ

1 月の入荷量は 772 トンで前年同月並み、2 月は 840 トンで前年の 83%であった。3 月は産地の水揚量が増加したため、1 千 200 トンで前月の 142%、前年同月の 138%であった (図 8)。価格は 1 月が 523 円/kg で前年同月の 82%、2 月は 574 円/kg で前年並みであった。3 月は入荷の増加に伴い、486 円/kg で前月の 85%、前年同月の 74%であった。

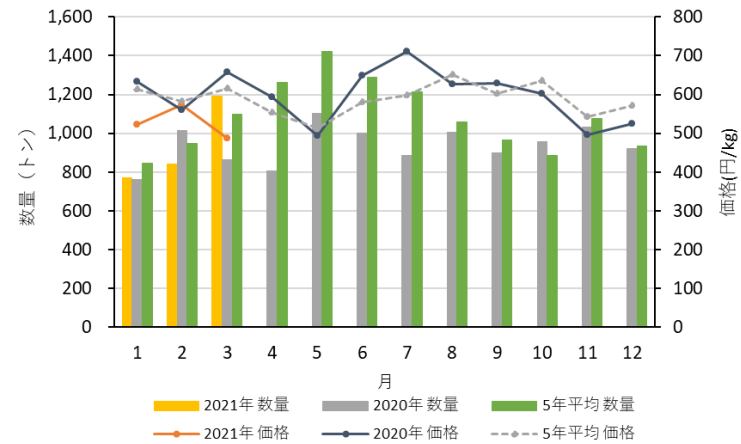


図 8. マアジの入荷量と価格の推移

2) 養殖マダイ

1月の入荷量は1千100トンで前年同月の130%、2月は1千トンで前年の120%、3月は1千200トンで前年の131%と高い水準を維持した（図9）。価格は1月以降600円台で前年同月の70～80%ほどで推移した。新型コロナウイルス対策として、インターネット通販の送料補助や小売店でのPR販売を支援する水産物販売促進緊急対策事業により、安い価格での販売が続き、需要が増加したことが入荷量の増加につながったとみられる。

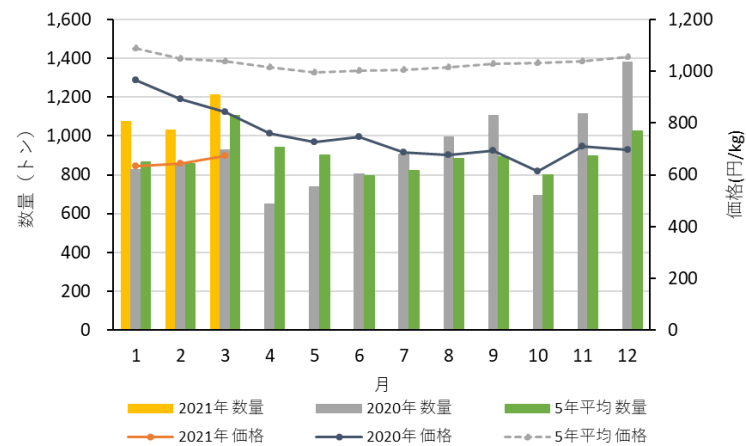


図 9. 養殖マダイの入荷量と価格の推移

3. まとめ

1～3月は、産地市場では、全般的に安値基調が続き、特に1,000円/kg以上の高価格魚はコロナ禍による外食需要減少の影響を受け、2020年と2019年に比べて価格を下げた魚種が多かった。また、豊洲市場においても、取扱数量、平均価格ともにやや伸び悩んだ。

一方で、スーパーマーケット販売統計調査（全国スーパーマーケット協会）によると、水産物の売上高は、既存店ベースで1月が前年同月比102.9%、2月が102.8%、3月が前年同月比99.4%、2019年比104.5%であった。このことから、緊急事態宣言発令に伴い、水産物の家庭内需要は高い状態が続いたことがわかる。マアジなどの一般鮮魚や養殖マダイなどの養殖魚の入荷量の増加は、こうした一定の家庭内需要に支えられたものと考えられる。

現在も全国的に新型コロナウイルスの新規感染者が多く、第3回目の緊急事態宣言が発令されていることから、引き続き水揚量と市況の動向を注意して見ていく必要があるだろう。

（水産情報部）